

特集 「急性心筋梗塞診療の未来を考える」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
循環器内科学

的 場 聖 明



急性心筋梗塞やそれに起因する様々な合併症は、多くの循環器疾患の中で最も重要な疾患です。近年のカテーテル治療および冠動脈ステントの進歩はめざましく、急性心筋梗塞に院内死亡率が、最近30年間で20~30%から5%前後まで低下してきました。他にも禁煙指導や高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病に対する治療、ICUの整備、循環補助機器の進歩、血栓溶解療法から冠動脈形成術、冠動脈ステントの進歩、心臓リハビリテーションなど多くの努力の成果でもあります。しかし、超高齢化社会を目の前にして、さらなる死亡率改善を目指すにはどうすれば良いのでしょうか。京都府立医大循環器内科では、以前の第二内科の時代から、関連病院の先生達と一緒に京都心筋梗塞研究会という研究会を通して、レジストリー研究を行ってきました。これまでの心筋梗塞治療の進歩と京都心筋梗塞研究会の成果は、京都第二赤十字病院の藤田先生、京都第一赤十字病院白石先生の章に詳しく紹介していただいています。また、心肺蘇生法や院外心停止症候群とICUのあるべき姿については、本学の救急医学の太田先生、ICUの橋本先生に執筆していただきました。そして不整脈やこれからの循環器内科の取り組みについては当教室の白山先生、中村先生にまとめてもらいました。これまでのようにカテーテルや道具の進歩だけでは、死亡率を低下させることは、困難であると考え、昨年からは、京都大学循環器内科、京都府医師会、京都府、京都市と連携をとり「京都府急性冠症候群（ACS）協議会（仮称）」による地域医療システムを構築しています。図1のよう

な各連絡網で両大学と医療機関、行政、医師会が手を取り、新たな取り組みを始めます。心筋梗塞の予防・発症時から病院への搬送過程、病院初診時からカテーテル治療、その後のリハビリテーションや2次予防について薬剤や治療法が多施設共同研究やレジストリーによる臨床研究のみならず、基礎研究や行政支援や通信システム改善などあらゆる手段を尽くして京都の心筋梗塞診療を世界一にしたいと考えています。その取り組みの一環として京都精華大学や京都国際マンガミュージアムのプロの漫画家の協力を得て、疾病啓蒙マンガ「あなたとあなたのご家族を守るために一心筋梗塞と弁膜症」¹⁾を出版し、病院・医院を通して府民に配布しています。できることから少しでも努力し、よりよい急性心筋梗塞診療を目指していきたいと考え

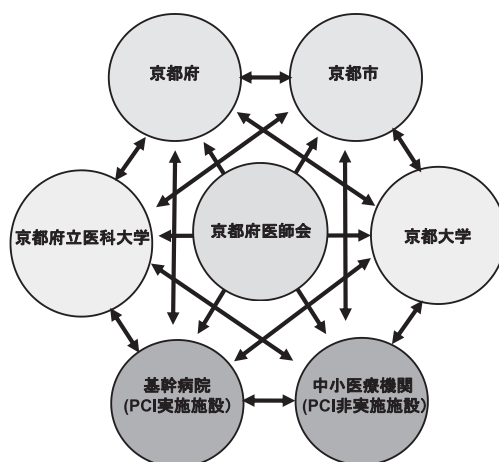


図1 行政・医療機関・医師会と京都大学・京都府立医科大学による急性心筋梗塞医療向上のためのネットワーク

ています。本特集がその一助となることでその

課題の探索と解決の第一歩としたいと考えます。

文

献

- 1) 「あなたとあなたのご家族を守るために—心筋梗塞と弁膜症—」のPDF版は、京都府立医科大学循環器

腎臓内科のホームページ <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/med2/index.html> からダウンロード可能です。